



自民党・無所属 大阪府議団だより

すぎもと たいへい 杉本太平 議員は

都市の成長、大阪全体の底上げを目指します。



PROFILE
和泉市選出
昭和51年生まれ。現在3期目。税理士、行政書士。信太山自衛隊協力会役員。和泉市立池上小、浪速中・高、大産大、札幌大院。元アマフト関西代表。元和青年会議所理事長。家族：妻と娘4人。

知事と論戦!

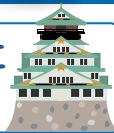
大阪の成長へ! 市の権限はそのままだに、府市連携を続けるべき

大阪都構想の代案とも言われる、いわゆる「大阪府市一体化条例」について、杉本府議と吉村知事が論戦。この条例は「府と市の調整会議の条例化」と「大阪市が持つ権限の大阪府への移譲」の二つが柱です。調整会議の条例化については、「府市の連携を強化すべき」と訴えてきた私たち自民党府議団も、反対するものではありません。しかし問題は、大阪市の権限を府に移すことです。今回、市から府に移す「区域のマスタープラン」や「都市再生特別地区」などは、住民に身近で、かつ広域的なまちづくりに関する権限であり、広域的機能を有した住民に近い大阪府が担うべきです。委員会質疑では、市に権限がある事と都市計画が進まなかった事との因果関係を示すことはできず、単に「大阪府が大阪市の開発に関する権限を奪い取りたいだけ」ということが明らかになりました。住民投票の民意を尊重するならば、大阪府は大阪市の権限を奪い取るのではなく、大阪府が大阪・関西の成長を牽引できるようにバックアップし、併せて府下全域をコーディネートしていく必要があります。



住民投票の民意を尊重し、新しい大阪へ!

大阪市を成長エンジンに 成長する大阪・関西



私達は、橋下知事や松井知事らと侃々諤々の議論をしながら、人口減少社会において、施設の統廃合や、行政間の連携、役割分担を進めることが必要との認識から改革に協力してきました。昨年11月の住民投票では「大阪市を廃止し特別区を設置する」ことへの賛否が問われ、「大阪市存続」の民意が示されました。大阪府は、上から目線で大阪市内の都市開発の権限を奪うのではなく、成長の核である大阪府がまちづくりの主体となり、それを尊重し、市と一体となってバックアップしていく必要があります。

大阪府は市町村支援を強化 大阪全体の底上げを



この10年間、大阪府は「府市、府市一体」と言って大阪市内の開発を重視してきました。大阪市内は、万博、IR、うめきた、森之宮まちづくり、なにわ筋線、観光インバウンド...で沸き、人口流入も加速。その一方で、府下市町村は、人口減少、税収減、市町村格差等様々な問題を抱えています。これから大阪府に求められる役割は、府下市町村の支援強化です。持続可能な大阪をつくるため、大阪全体をコーディネートし、様々な課題に直面する府下の市町村を助けていかなければなりません。



オール関西で日本をリード 東の東京、西の関西へ



大阪府は近隣府県との連携強化を図る必要があります。吉村知事は、関西広域連合の会議に欠席を繰り返し、近隣府県との連携を軽視していますが、それは間違いです。新型コロナウイルスでの看護師の派遣要請や緊急事態宣言解除要請が記憶に新しいところですが、大阪関西万博、京都・神戸・大阪のスタートアップ拠点化、関西ワールドマスターズゲームズ、大阪港と神戸港の一体化、ドクターヘリの共同運用等、近隣府県との連携が欠かせません。大阪府が旗振り役となり、国の権限財源の受け皿となる「チーム関西」「関西西州」を実現し、首都東京に対抗する「西の拠点」をつかっていく必要があります。

都市整備中期計画への位置付けが決定!

大阪府は、令和3年度から10年間を対象にした都市インフラ政策の総合指針として「大阪府都市整備中期計画」を策定。杉本府議が以前から要望を重ねてきた三林岡山線(室堂町北~万町北交差点)の連続高架の検討などが盛り込まれることとなりました。

和泉市内の事業予定箇所(新規・継続)

- 大阪和泉泉南線(和泉中~市役所北)歩道整備
- 大阪和泉泉南線 太町歩道整備
- 父鬼和気線(春木町~久井町)歩行空間整備
- 松尾川(春木町)河川改修
- 榎尾川(千歳橋上下流)河川改修
- 砂防堰堤事業(春木川町)
- 砂防堰堤事業(坪井町)
- 砂防堰堤事業(南横山小学校横)
- 170号線(上川バイパス)道路改良事業
- 170号線4車線化
- 170号線(下宮町)歩道設置



三林岡山線(室堂町北~万町北交差点)の連続高架の検討



府道父鬼和気線(北松尾小学校~和気交差点)の歩行空間整備



大阪岸和田南海線(黒鳥町~伯太町)の整備



春木岸和田線(ららぽーと横)交差点改良事業